

区分	主要施策	基本事業（施策）				事務事業						
		番号	施策名	評価区分	評価	番号	事務事業名	評価区分	評価			
①収益性が高く多様な農業経営の促進と計画的な森林整備	1	・収益性の高い農業経営の確立に向けた支援 ・薬草栽培に係る栽培技術の向上と生産者への支援	1次	B	施策のKPIについては、概ね達成されているが、今後の収穫量増加が普及の課題となっている。冬季栽培作物については、1品目生産が開始されており、今後も継続して試験に取り組んでいく。その他の作物については、生産者の意向などを踏まえ、計画的に取り組んでいる。	1-1	薬用作物振興事業補助金	1次	B	カノコソウについては、有る程度定着してきているが、新たな品目については、引き続き研究が必要である。		
			WG	-	1次評価のとおり。			WG	B	1次評価のとおり。		
			外部	-	1次評価及びWG評価のとおり。（委員には書面にて送付）			外部	B	1次評価及びWG評価のとおり。（委員には書面にて送付）		
			2次	-	1次評価のとおり。			2次	B	1次評価のとおり。		
			外部	-	1次評価及びWG評価のとおり。（委員には書面にて送付）			1次	A	農業分野では常に新たな品種や栽培技術が公表され、名寄の自然条件に合うものを選定していく必要がある。また、そうした取組により収益性の向上を図ることが、農業経営を安定させていくことから、引き続き試験・研究と指導が必要である。		
			2次	-	1次評価のとおり。			WG	A	1次評価のとおり。		
	2	・多様なゆとりある農業経営に向けた支援 ・新たな農業労働力の発掘とミスマッチの解消	1次	B	外国人技能実習生については、概ね順調に確保されているが、労働力確保に向けた制度創設はやや遅れている。調査結果を整理し、対策について検討を進める。また、グリーンツーリズムについては、推進協議会を中心に取り組みが推進されている。	2-1	外国人技能実習生受入事業補助金	1次	A	市内だけでは十分に確保されない状況にあるため、引き続き事業の実施が必要である。		
			WG	-	1次評価のとおり。			WG	A	外国人技能実習生受入希望数と受入数がわかればわかりやすい。		
			外部	-	1次評価及びWG評価のとおり。（委員には書面にて送付）			外部	A	1次評価及びWG評価のとおり。（委員には書面にて送付）		
			WG	-	1次評価のとおり。	2-2	グリーンツーリズム推進事業補助金	1次	A	今後も農業に対する理解を深め広げていくために、グリーンツーリズムの活動は重要であり、取り組みへの支援により持続的な活動が期待されることから事業を継続する。		
			外部	-	1次評価及びWG評価のとおり。（委員には書面にて送付）			WG	A	1次評価のとおり。		
			2次	-	1次評価のとおり。			外部	A	1次評価及びWG評価のとおり。（委員には書面にて送付）		
			外部	-	1次評価のとおり。			2次	A	1次評価のとおり。		
			2次	-	1次評価のとおり。			2-3	農業補助労働力確保事業	1次	A	調査結果を踏まえ引き続き課題解消に向けた検討に取り組む。
			WG	-	1次評価のとおり。					WG	A	1次評価のとおり。
外部	-	1次評価及びWG評価のとおり。（委員には書面にて送付）	外部	A	1次評価及びWG評価のとおり。（委員には書面にて送付）							
3	山林所有者が実施する森林整備への支援	1次	C	民有林における森林整備は国・道の補助金配分額によって、間伐等の事業量が決まり、近年は要望額どおり配分されていないことから、間伐等の事業量が当初の予定を大きく下回り、目標値に届いていない。	3-1	民有林人工造林地除間伐事業	1次	A	森林所有者の負担軽減と優良森林資源の確保に向け、民有林における間伐の推進は有効である。			
		WG	-	1次評価のとおり。			WG	A	1次評価のとおり。			
		外部	-	1次評価及びWG評価のとおり。（委員には書面にて送付）			外部	A	1次評価及びWG評価のとおり。（委員には書面にて送付）			
		2次	-	1次評価のとおり。			2次	A	1次評価のとおり。			
		外部	-	1次評価及びWG評価のとおり。（委員には書面にて送付）			1次	A	名寄の特色である「日本一のもち米のまち」としての理解を深めることで、基幹産業である農業に対する理解も広がることから、引き続き多くの市民に取り組みを広げていく必要がある。			
		2次	-	1次評価のとおり。			WG	C	もち米サポーターの活用方法や事業効果が見えてこない。補助が無くなり、規模・内容の見直しが必要ではないか。			
②名産産農産物・加工品のブランド化と消費拡大	4	・農産物ブランドの確立 ・原産地呼称管理制度の導入 ・地場農産物関連企業の研修受入の推進	1次	C	施策のKPIであるもち米サポーター数について、26名養成し概ね順調に進められているが、認証制度については、目標値に届いていないことから、PR・ブランド化の手法として再検討が必要となる。	4-1	もっともち米プロジェクト（もち米文化創造事業補助金）	1次	A	名寄の特色である「日本一のもち米のまち」としての理解を深めることで、基幹産業である農業に対する理解も広がることから、引き続き多くの市民に取り組みを広げていく必要がある。		
			WG	-	もち米サポーターの活用方策を検討するなど、改善の余地がある。			WG	C	もち米サポーターの活用方法や事業効果が見えてこない。補助が無くなり、規模・内容の見直しが必要ではないか。		
			外部	-	1次評価及びWG評価のとおり。（委員には書面にて送付）			外部	B	外から見てサポーターのその後の活動が分からない。イベント参加の呼びかけや生産者とサポーターの交流機会を持つなど、事業の今後の広がり期待したい。		
			2次	-	1次評価のとおり。			2次	B	サポーター養成後の活動を促進する取組により、もち米や農業に対する市民の理解を更に広げていく。		
			外部	-	1次評価及びWG評価のとおり。（委員には書面にて送付）	4-2	地域ブランド確立事業	1次	C	農産物のPRや付加価値向上に向けて制度創設について検討してきたが、制度設計に課題が生じたことから、内容について更に検討する必要がある。		
			WG	-	1次評価のとおり。			WG	C	1次評価のとおり。		
			外部	-	それぞれ個別の事務事業評価のとおり。			外部	C	他地域との差別化を図ることは必要だが、市による認定の効果の限界や認定されなかった作物に与えるデメリットを整理し、差別化の手法について味覚以外の客観的な指標や外部組織からの評価のPRなど見直しを検討しても良いのではないかと。		
			2次	-	1次評価のとおり。			2次	C	1次評価のとおり。		

区分	主要施策	基本事業（施策）				事務事業				
		番号	施策名	評価区分	評価	番号	事務事業名	評価区分	評価	
④食品製造業の誘致及び企業支援	9	都市地域からの就農を目指す人材の受入の促進	1次	C	大目標のKPIである新規就農者数は目標値を上回っているが、施策のKPIである地域おこし協力隊の受入について、募集しても応募が少なく隊員数が目標値に届いていないことから募集方法の再検討が必要となる。	9-1	地域おこし協力隊事業	1次	B	委嘱後任期終了をした2名は任地で就農・定住していることから、事業は農業担い手対策、人口減少対策に有効であるが、近年地域おこし協力隊を募集しても、なかなか応募が少ない状況にあり委嘱目標人数を下回っている。従って、HPへの掲載方法や広報活動を含め募集活動を再検討する必要がある。
			WG	—	1次評価のとおり。			B	1次評価のとおり。	
			外部	—	市内他地区への情報提供がもっとあってほしい。また受け入れ地区の拡大を検討してほしい。			B	市内他地区への情報提供がもっとあってほしい。また受け入れ地区の拡大を検討してほしい。	
			2次	—	1次評価のとおり。			B	1次評価のとおり。	
	10	林業従事者の確保を図るための支援	1次	A	森林作業員の通年雇用の割合が増加するなど、長期化の成果があり、雇用日数も向上している。	10-1	森林整備担い手対策推進事業	1次	A	森林整備の担い手である森林作業員の就労条件を良くすることは、森林整備の推進はもとより、地域への定住促進や山村振興対策などにつながることから今後も継続する必要がある。また、北海道の要領により実施されている事業のため継続が望ましい。
			WG	—	1次評価のとおり。			A	1次評価のとおり。	
			外部	—	1次評価及びWG評価のとおり。（委員には書面にて送付）			A	1次評価及びWG評価のとおり。（委員には書面にて送付）	
			2次	—	1次評価のとおり。			A	1次評価のとおり。	
	11	食料品製造業の立地への支援	1次	B	KPIが食料品製造業の事業所数となっており、経営規模や他の要因（後継者の有無等）により事業所数の減少に繋がっている。食料品製造業の立地は農産物等への付加価値による経済の活性化を目指すものであり、目標設定を付加価値額（工業統計）への変更の検討も必要である。	11-1	食料品製造業の立地への支援	1次	B	食料品製造業の立地支援は現状施策で妥当と考えられる。しかし、外部からの企業誘致を行う場合は、安定的な原料供給がなければ、企業の産地への参入は難しい。地域として、原料供給体制の構築が必要である。
			WG	—	課題解決に向けた取組を継続していく必要がある。			B	1次評価のとおり。	
			外部	—	1次評価のとおり。			B	1次評価のとおり。	
			2次	—	1次評価のとおり。			B	1次評価のとおり。	
⑤創業・事業承継に対する支援	12	経済団体、金融機関と連携した創業・事業承継の推進	1次	B	創業支援は創業支援事業計画に基づき支援を行い、計画目標を上回る実績となっており、継続的な施策の推進を行っていく。事業承継においては、基礎データが不足していることから、関係機関と連携しデータ収集及び具体的な施策の構築が必要である。	12-1	経済団体、金融機関と連携した創業・事業承継の推進	1次	B	創業者の支援施策は、事業所数の増加に繋がることから、経済の維持・拡大を図る上で必要な施策である。事業承継も同様に事業所の減少を抑え、維持を図る上で必要な施策であるが、支援体制及び支援施策を構築する必要な基礎データの整備がなされていない状況にある。
			WG	—	1次評価のとおり。			B	今後、事業承継が課題になると考えられることから進め方を改善して取組を継続。	
			外部	—	1次評価のとおり。			B	1次評価のとおり。	
			2次	—	1次評価のとおり。			B	1次評価のとおり。	
⑥都市部等からの移住の促進と海外観光客の拡大	13	市街地でのお試し移住住宅の提供	1次	C	お試し移住住宅の利用は夏期に集中しており、冬期の利用が少ない。市街地でのお試し住宅の件数について、マンションタイプのみならず、ニーズを把握した上で一軒家などの住宅整備の検討が必要。	13-1	市街地でのお試し移住住宅の提供	1次	C	「市街地お試し住宅」の供用開始が7月であったため、利用が集中する夏期の前に事前告知などが出来なかった。その結果、利用に繋がらず利用者のニーズを把握することができなかった。
			WG	—	1次評価のとおり。			C	1次評価のとおり。	
			外部	—	職の確保と併せて一体的な支援を検討してほしい。			C	都市部をターゲットにした移住促進施策が、近隣からの移住希望の増につながることも期待したい。	
			2次	—	当市での人材不足の業種を中心に、首都圏での移住相談会に公共職業安定所の職員が同行する等、具体的な就業相談に対応する。			C	様々な媒体を通じたPRを行い、首都圏を中心としながら幅広く移住希望者への情報を提供に努める。	
	14	空き家住宅再整備への支援	1次	C	名寄市住宅改修等推進事業補助金では、空き家バンク登録住宅が補助対象となるので、空き家バンク登録住宅がなければ実績に結びつかない。しかし、両制度とも開始から間もない制度であるため、今後の状況を見ながら、場合によってはインセンティブを持たせた施策の検討が必要である。	14-1	空き家住宅再整備への支援	1次	C	空き家住宅再整備支援と位置づけられている名寄市住宅改修等推進事業補助金は、中小企業振興及び現況住宅による定住施策をベースとしており、空き家住宅再整備は補助区分の一つにしか過ぎなく、特化したインセンティブを与えられない現状施策で効果的な実績を上げることは困難である。
			WG	—	空き家バンク登録数を増やす取組を含め、移住施策の検討が必要。			C	空き家バンク登録数を増やす取組が必要。	
			外部	—	不動産業者との連携を強化し、空き家バンクへ登録しやすくする方法の検討が必要。			C	不動産業者との連携を強化し、空き家バンクへ登録しやすくする方法の検討が必要。	
			2次	—	空き家バンク担当部署と連携し事業を推進していく。			C	空き家バンク担当部署と連携し事業を推進していく。	

区分	主要施策	基本事業（施策）				事務事業					
		番号	施策名	評価区分	評価	番号	事務事業名	評価区分	評価		
2	⑦冬季スポーツ大会の開催・誘致の推進	15	JOCジュニアオリンピックカップ（ノルディック種目）の開催	1次	C	開催地以外の都府県の参加人数及び参加率が減少していることが目標値に未到達の要因となった。特にスキー競技が盛んではない都府県からの参加が少ない。原因としては、開催地が遠方であり、遠征費用が高額になることが考えられる。競技人口が大幅に増えない現状からすると、今後も目標値を超えることは難しい。	15-1	ジュニアオリンピックカップ開催負担金	1次	B	全国規模の大会を実施したことで、各種分野において地域連携の重要性が認識され、冬季スポーツによるまちづくりの理解者が増えたこと、また、交流人口の拡大による経済効果も一定程度認められ、特にホテル等にとっては閑散期対策となった。
				WG	—				1次評価のとおり。		
				外部	—				地域経済活性化に繋がるよう、継続開催に向け取り組んで頂きたい。		
				2次	—				1次評価のとおり。		
		16	各種大会の開催への支援	1次	A	計画していた冬季スポーツ大会を全て実施し、競技力の向上、交流人口の拡大を図り、地域経済への波及効果も高かった。	16-1	各種冬季スポーツ大会支援補助金	1次	B	各種冬季スポーツ大会を実施することで、冬季スポーツの拠点化事業が強く印象付けられた。冬季スポーツによるまちづくりの理解者が増えたこと、また、交流人口の拡大による経済効果も一定程度認められる。
				WG	—	1次評価のとおり。					
	17	全国規模の冬季スポーツ大会の誘致の推進	1次	A	地元競技団体の働きかけにより、新規全国レベルの大会誘致に成功。中央競技団体の取組等を注視しながら、プロモーション活動を行っていく必要がある。	17-1	冬季スポーツ拠点化事業	1次	B	冬季スポーツ大会を誘致したことで、冬季スポーツの拠点化事業が強く印象付けられた。冬季スポーツによるまちづくりの理解者が増えたこと、また、交流人口の拡大による経済効果も一定程度認められる。	
			WG	—	1次評価のとおり。						
			外部	—	1次評価のとおり。						
			2次	—	1次評価のとおり。						
	⑧冬季スポーツ合宿の誘致の推進	18	・合宿受入窓口の一本化と支援策の充実 ・合宿誘致の推進 ・名寄市が一体となった合宿誘致の推進	1次	A	数字をみれば順調といえるが、地域の連携、受入れ体制にまだまだ課題が多い。今後はなよろスポーツ合宿誘致推進協議会において、課題解決に向けた取組が必要。	18-1	冬季スポーツ拠点化事業	1次	B	なよろスポーツ合宿誘致推進協議会を設立したことで、地域一体となった受入れ基盤が出来たことは大きな成果。今後は、会員拡大をしながら、更に相乗効果を高めて、競技力の向上、交流人口の拡大を図ってきたい。
				WG	—	更なる合宿受入人数増加に向け、目標を上方修正し取組を推進して頂きたい。					
外部				—	民業圧迫にならないような配慮は必要であるが、市の遊休施設の活用も検討しながら合宿誘致を推進してはどうか。また、金メダリストの阿部氏やナショナルトレーニングセンターの職員であった豊田氏など人材を活用した、アウトリーチによる合宿誘致活動を展開してはどうか。						
2次				—	曖昧だったスポーツ合宿の窓口を設立することは、本市を訪れる選手等にとって利便性が高く、各種サービスの向上に繋がる。また、情報が一元化されることでスポーツ合宿、スポーツ振興に関する戦略策定においても有効である。						
WG				A	目標値を大幅に上回っていることから、目標値の上方修正も検討できないか。						
外部				B	金メダリストの阿部氏やナショナルトレーニングセンターの職員であった豊田氏など人材を活用した、アウトリーチによる合宿誘致活動を展開してはどうか。						
⑨ジュニア世代の育成強化と冬季スポーツ拠点化の推進	19	・講演会等の開催 ・指導体制の充実	1次	A	数字的には順調といえるが、地域の連携、参加人数等に課題がある。今後はなよろスポーツ合宿誘致推進協議会において、課題解決に向けた取組が必要。	19-1	冬季スポーツ拠点化事業	1次	B	各種事業実施により、全国大会出場者も増え、また新しい指導方法、トレーニング方法についても関心が高まり、競技力向上につながった。	
			WG	—	長期的な取組とするためにも、受益者負担を検討すべき。						
			外部	—	1次評価のとおり。						
			2次	—	講演会等の開催を継続的に実施することで、本市のスポーツ振興の機運が高まるとともに、時代に合った指導体制の構築に効果が高い。						
⑩子育てと仕事の両立支援の推進	20	多様な保育サービスの提供	1次	B	私立保育所、認定こども園、幼稚園すべてが新制度に移行し、キャリアパスを活用し、職員の資質向上などに努めており、待機児童解消に向けて各施設努力いただいているが、職員確保の先行きが見えない。	20-1	市立保育所の運営維持	1次	A	保育ニーズが高まる中、職員確保もままならない状況で創意工夫により、待機児童の解消につとめている。ただ、維持管理のコストパフォーマンスを考えると施設整備の必要性がある。	
			WG	—	保育の質の維持が必要である。また、職員確保と施設管理は課題である。						
			外部	—	名寄市立大学の4大化（社会保育学科）に伴い、保育士・幼稚園教諭の免許を保有した卒業生が2年間輩出されないが、職員が確保されるよう取り組んで頂きたい。						
			2次	—	保育の質の維持、待機児童解消のためには職員の確保は必須であり、公立・私立ともに職員確保に努めていく必要がある。						
	21	ファミリー・サポート・センターの新設	1次	B	当初目標であった100名という会員数の確保は出来たが、提供会員数が少ない又、会員登録数はいるが実際にサービス提供の利用者が少ない。	21-1	ファミリー・サポート・センター事業	1次	B	事業内容について改善すべき点の検討は必要と思われるが、本事業が定着するまでは時間が必要と思われるため。	
			WG	—	転出入が多い地域性から必要な事業である。事業が定着し活性化することに期待。						
			外部	—	1次評価のとおり。						
			2次	—	1次評価のとおり。						

区分	主要施策	基本事業（施策）				事務事業					
		番号	施策名	評価区分	評価	番号	事務事業名	評価区分	評価		
⑪子育て家庭への支援の推進	22	放課後児童対策の充実	1次	A	就労等により家庭が留守になる環境の児童の健全育成を図ることができた。	22-1	学童保育所の運営	1次	A	地域に子育て支援の施設として必要であるため。	
			WG	-	1次評価のとおり。			WG	A	1次評価のとおり。	
			外部	-	1次評価及びWG評価のとおり。（委員には書面にて送付）			外部	A	1次評価及びWG評価のとおり。（委員には書面にて送付）	
			2次	-	1次評価のとおり。			2次	A	1次評価のとおり。	
		23	子育てしやすい就労環境の整備	1次	C	市民、事業者へ制度の周知活動はしているが、制度活用の事例が少なく、制度の活用しやすい職場環境づくり等、課題もある。	22-2	東児童クラブの整備	1次	A	公設又は民間の児童クラブが設置されていなかった東小学校区に児童クラブの開設・運営を行うことで、児童が安全安心に通所することができた。
				WG	-	子育て環境は整備されてきており、若年層の男女共同参画意識は徐々に変わってきているのではないかと。子育てのみならず、今後は高齢介護世代への啓発にも取り組んでほしい。			WG	A	1次評価のとおり。
				外部	-	1次評価のとおり。			外部	A	1次評価及びWG評価のとおり。（委員には書面にて送付）
				2次	-	1次評価のとおり。			2次	A	1次評価のとおり。
	24	情報提供・相談の充実	1次	A	子育てコンシェルジュを配置し、子育てをしている保護者の幼児教育・保育施設を利用することができるのか不安感を保護者と直接対話し、情報を提供することで解消出来ている。	23-1	男女共同参画推進事業	1次	B	意識の醸成が図られてきてはいるものの、依然として性別による固定的役割分担意識が一部では残っているため、子育てにおいても性別による偏りが生じているため。	
			WG	-	定着してきており、今後も維持・継続すべき事業であると考えている。			WG	B	個人の意識啓発を継続して取り組むべき。	
			外部	-	1次評価及びWG評価のとおり。（委員には書面にて送付）			外部	B	1次評価のとおり。	
			2次	-	1次評価のとおり。			2次	B	1次評価のとおり。	
25		子育て交流の促進	1次	A	親子お出かけバスツアーなどの事業展開により就学前のこどもを持つ親子の交流が出来ている。	24-1	子育てコンシェルジュ	1次	A	行政と保護者のパイプ役として、保護者の不安感解消の重要な役割を果たしております。	
			WG	-	ひまわりランドの事業運営と組み合わせるなどして、内容や回数を検討してはどうか。施策の達成度はA⇒Bでいかがでしょうか。			WG	A	今後も相談窓口として定着するよう、更なる市民周知を図るべき。	
			外部	-	利用者アンケートのニーズに応えるとともに、ひまわりランドなどと連携した取組を期待します。			外部	A	1次評価及びWG評価のとおり。（委員には書面にて送付）	
			2次	-	ひまわりランドを中心とした子育て支援を充実させ、施策の連携を図る必要がある。			2次	A	1次評価のとおり。	
26		子育て支援センターの充実	1次	A	ひまわりランドを整備し、開所時間の拡大、遊具の整備を行った結果、子育て支援センターの利用数は増加傾向にあります。	25-1	青空子育て支援事業	1次	C	利用数の減少はあるが、子育て支援としてのバスツアーニーズは高いと判断する。事業としては5年が経過したことから見直しを検討する。	
			WG	-	1次評価のとおり。			WG	B	利用者ニーズを把握し、実施回数の見直しを検討するべき。事務事業の点検評価は、達成度・地方創生ともにa⇒bでいかがでしょうか。	
			外部	-	1次評価のとおり。			外部	C	達成度が成果指標に届いていないことから、WG評価のとおり達成度a⇒bではないか。	
			2次	-	1次評価のとおり。			2次	B	達成度については、成果指標に届いていないことから、WGのとおりbとし、2次評価としては、今後も市民ニーズを反映した事業とするために、進め方を改善し継続した事業とする必要があることから、Bとします。	
27	子どもと親の健康を支える保健サービスの充実	1次	A	こんにちは赤ちゃん訪問では対象家庭全てに訪問し、支援することができている。4か月児健診では、未受診者に対する家庭訪問を、3歳児健診では保育所や幼稚園への訪問などきめ細かい対応により発育発達の確認ができていることから順調と判断した。	26-1	ひまわりランド運営事業	1次	A	開設以降多く親子にご利用いただいております。子育て支援のニーズも高いため。		
		WG	-	1次評価のとおり。			WG	B	好評で継続すべき必要な事業である。今後、親子お出かけバスツアーやファミリーサポートセンター事業と組み合わせるなど、子育て事業の一本化も検討してはどうか。		
		外部	-	1次評価及びWG評価のとおり。（委員には書面にて送付）			外部	A	1次評価のとおり。		
		2次	-	1次評価のとおり。			2次	A	1次評価のとおり。		
27-1	母子健康支援・親子教室事業	1次	A	妊婦一般健康診査による妊婦及び胎児の健康管理と健診にかかる費用負担の軽減が図られる。また、出産後の全戸訪問や乳幼児健診の実施により、母子の健康管理と子育て支援につながっている。	27-1	母子健康支援・親子教室事業	1次	A	妊婦一般健康診査による妊婦及び胎児の健康管理と健診にかかる費用負担の軽減が図られる。また、出産後の全戸訪問や乳幼児健診の実施により、母子の健康管理と子育て支援につながっている。		
		WG	-	1次評価のとおり。			WG	A	1次評価のとおり。		
		外部	-	1次評価及びWG評価のとおり。（委員には書面にて送付）			外部	A	1次評価及びWG評価のとおり。（委員には書面にて送付）		
		2次	-	1次評価のとおり。			2次	A	1次評価のとおり。		

区分	主要施策	基本事業（施策）				事務事業					
		番号	施策名	評価区分	評価	番号	事務事業名	評価区分	評価		
3		28	小児救急医療の実施など医療サービスの充実	1次	A	休日・夜間においても小児科専門医による迅速・適切な小児救急医療を受けることができる体制が確保された。	28-1	小児救急医療支援事業	1次	A	子どもが健やかに生まれ育ち、安心して子育てができるよう救急医療体制を整備することは、少子化対策や子育て家庭の子どもの健康を支えるうえで非常に重要であり、救急医療体制を継続するためには必要な事業である。
				WG	—	小児科の体制を維持するために必要な事業である。			WG	A	1次評価のとおり。
				外部	—	1次評価及びWG評価のとおり。（委員には書面にて送付）			外部	A	1次評価及びWG評価のとおり。（委員には書面にて送付）
				2次	—	1次評価のとおり。			2次	A	1次評価のとおり。
		29	子育て家庭の経済的負担の軽減	1次	A	医療費助成について、助成範囲の拡大にむけて検討が必要。	29-1	紙おむつ用ごみ袋支給	1次	A	少子化、人口減少社会において、地域における人口減少対策は喫緊の課題となっています。その対策のひとつとして、子育てにかかる保護者の負担軽減を行うことは、出産、育児に対する不安の解消につながり、名寄市で暮らすことに対する評価を高め、もって人口減少対策、将来における地方自治体の活力へとつながるものと考えます。
				WG	—	助成拡大には慎重な協議が必要と考えます。			WG	A	1次評価のとおり。
				外部	—	医療費助成は国の施策で検討されるべきものであることから、市単独での支援拡大は慎重な協議が必要である。			外部	A	1次評価のとおり。
				2次	—	外部評価のとおり。			2次	A	1次評価のとおり。
		29-2	乳幼児医療給付費	1次	A	乳幼児等に対する医療費の助成は、少子化対策として全国的に助成範囲の拡大が進められている。本市においても乳幼児等の健やかな成長を確保するため、平成26年8月診療分から全額助成を行うことで、子育てに対する負担軽減を図っており今後も継続して取り組んでいく必要があります。	29-2	乳幼児医療給付費	1次	A	乳幼児等に対する医療費の助成は、少子化対策として全国的に助成範囲の拡大が進められている。本市においても乳幼児等の健やかな成長を確保するため、平成26年8月診療分から全額助成を行うことで、子育てに対する負担軽減を図っており今後も継続して取り組んでいく必要があります。
				WG	A	1次評価のとおり。			WG	A	1次評価のとおり。
				外部	A	1次評価のとおり。			外部	A	1次評価のとおり。
				2次	A	1次評価のとおり。			2次	A	1次評価のとおり。
⑫家庭や地域社会から信頼される学校教育の推進		30	名寄市教育改善プロジェクト委員会の推進	1次	B	管理職のリーダーシップのもと、基礎学力保障の取組やミドルリーダーの育成等に取り組み、包括的な学校改善を推進している。	30-1	放課後こども教室事業	1次	B	自ら考え、自ら学ぶという姿勢が育ち始めている。
				WG	—	プロジェクト委員会の具体的な取組を広報してはどうか。			WG	B	放課後の居場所としては、年齢層によって必要度が変わってくる。指標の小学生の定員設定は適正なのか。
				外部	—	1次評価及びWG評価のとおり。（委員には書面にて送付）			外部	B	1次評価及びWG評価のとおり。（委員には書面にて送付）
				2次	—	知・徳・体の調和のとれた児童生徒の育成を目指した取組であり、今後子どもたちの「生きる力」を育む各種施策に積極的に取り組んでいくことを望む。			2次	B	放課後の居場所づくりの面から必要な事業だが、参加者の固定化なども見られることから一考を願いたい。
		31	名寄市立大学との連携に基づく特別支援教育の充実	1次	A	関係機関で組織する特別支援連携協議会において、本市の現状と課題、今後の取組の方向性について随時協議がなされている。	31-1	特別支援教育支援員の配置	1次	A	毎年度、各学校の要望をしっかりと聞き取り、適正な支援員の配置を行うことにより、スムーズな学校運営が担保されている。
				WG	—	名寄市立大学との連携した地域の教育に関わる良い取組であることから、継続実施を。			WG	A	1次評価のとおり。
				外部	—	1次評価及びWG評価のとおり（委員には書面にて送付）			外部	A	1次評価及びWG評価のとおり（委員には書面にて送付）
				2次	—	1次評価のとおり。			2次	A	1次評価のとおり。

区分	主要施策	基本事業（施策）				事務事業							
		番号	施策名	評価区分	評価	番号	事務事業名	評価区分	評価				
⑬高齢者が活躍できる環境づくりの推進	高齢者への生涯学習機会の確保	32	高齢者への生涯学習機会の確保	1次	B	高齢者学級は地域の独自性を発揮し、生涯学習機会の推進が図られている。一方で、高齢化社会の到来で地域の高齢化率が上がる中で、働く高齢者が増えているなど社会的要因もあるが、入学者の確保に苦慮しており、さらなる創意工夫が求められている。	32-1	ピヤシリ大学運営事業	1次	A	高齢者の自己能力を開発し、現代社会に対応し充実した生活を送るため、多様な学習内容のカリキュラムを組み実施している。また、公開講座は、学生のみならず、一般公開しており、生涯学習を広く内外に発信しています。学生数の確保について急激な改善は困難だが、継続して魅力あるカリキュラムの構築やPRを行う。		
				WG	—	1次評価のとおり。	32-2	風連瑞生大学運営事業	WG	A	高齢者が自主的に学ぶ機会として有意義であり継続実施を。		
				外部	—	1次評価及びWG評価のとおり（委員には書面にて送付）			外部	A	1次評価及びWG評価のとおり（委員には書面にて送付）		
				2次	—	1次評価のとおり。			2次	A	1次評価のとおり。		
				1次	A	会員数は減少傾向ではあるが、高齢者の就業機会を確保し、社会参加を促すこととなっている。			33-1	高齢者事業センター運営事業支援	1次	A	人口減少や高齢化により受講生は減少しているが、事業内容は受講生の希望を聴取りしながら進め、今後も生きがいづくり、健康増進事業として実施する。
				WG	—	就業機会の確保のため意義があり、必要な事業である。					WG	A	高齢者が自主的に学ぶ機会として有意義であり継続実施を。
		外部	—	1次評価及びWG評価のとおり。（委員には書面にて送付）	外部	A					1次評価及びWG評価のとおり（委員には書面にて送付）		
		2次	—	1次評価のとおり。	2次	A	1次評価のとおり。						
		33	高齢者の地域活動参加の場の確保	1次	A	会員数は減少傾向ではあるが、高齢者の就業機会を確保し、社会参加を促すこととなっている。	33-1	高齢者事業センター運営事業支援	1次	A	高齢者の運動と外出の機会が確保できており、介護予防にも寄与できている。高齢者人口は増加しているが、新規登録会員は減少傾向にある。		
				WG	—	就業機会の確保のため意義があり、必要な事業である。			WG	A	1次評価のとおり。		
				外部	—	1次評価及びWG評価のとおり。（委員には書面にて送付）			外部	A	1次評価及びWG評価のとおり。（委員には書面にて送付）		
				2次	—	1次評価のとおり。			2次	A	1次評価のとおり。		
	34	高齢期に健やかに生活するための健康づくりの推進	1次	A	参加者は微増ではあるが、健康づくり体操教室では毎回40～50人が集う場となっており、順調に事業が進んでいる。	34-1	健康づくり体操教室事業	1次	A	参加者は微増ではあるが、高齢者の介護予防につながり、健やかに生活を続けるための一助となっていることから、現状のまま継続することが必要。			
			WG	—	1次評価のとおり。			WG	A	1次評価のとおり。			
			外部	—	1次評価及びWG評価のとおり。（委員には書面にて送付）			外部	A	1次評価及びWG評価のとおり。（委員には書面にて送付）			
			2次	—	1次評価のとおり。			2次	A	1次評価のとおり。			
⑭短期大学部児童福祉学科の4年制化と保健福祉学部の再編強化	35	市立大学保健福祉学部への社会保育学科の設置	1次	—	社会保育学科1期生の卒業は平成31年度（平成32年3月）	35-1	大学保健福祉学部再編	1次	A	学部再編に係るハード面の整備は平成29年度で終了となる。学生、教員増等に伴う必要な施設整備は一定程度行えたものと考ええる。			
			WG	—	1次評価のとおり。			WG	A	1次評価のとおり。			
			外部	—	1次評価及びWG評価のとおり。（委員には書面にて送付）			外部	A	1次評価及びWG評価のとおり。（委員には書面にて送付）			
			2次	—	1次評価のとおり。			2次	A	1次評価のとおり。			
	⑮大学研究所機能の強化	36	名寄市立大学コミュニティケア教育研究センターの設置	1次	A	センター設置1年目のため、従前実施をしている公開講座を中心に企画をしてくれているところだが、外部機関（北海道など）と共催した講座の取組が出来たことは、今後に向けての大きな成果であったと考える。	36-1	コミュニティケア教育研究センターの運営	1次	A	センター設置1年目のため、従前実施をしている公開講座を中心に企画をしてくれているところだが、外部機関（北海道など）と共催をした講座の取組が出来たことは、今後に向けての大きな成果であったと考える。		
				WG	—	1次評価のとおり。			WG	A	成果指標である参加者数が大幅に伸びており、今後もコミュニティケア教育研究センターの取組に期待したい。		
				外部	—	1次評価及びWG評価のとおり。（委員には書面にて送付）			外部	A	1次評価及びWG評価のとおり。（委員には書面にて送付）		
				2次	—	1次評価のとおり。			2次	A	1次評価のとおり。		
		37	生涯学習・地方版CCRC構想導入に関する調査・研究の推進	1次	A	年々、道北地域に関する課題研究が申請されており、道北地域が抱える諸課題解決に向けより多くの提言、提案、解決の糸口などが地域へ提供されている。	37-1	名寄市立大学教育・研究機能向上事業	1次	A	年々、道北地域に関する課題研究が申請されており、道北地域が抱える諸課題解決に向けより多くの提言、提案、解決の糸口などが地域へ提供されている。		
				WG	—	実績値が伸びており、生涯学習・地方版CCRC構想導入に関する調査・研修の推進、地域課題の解決に期待したい。			WG	A	1次評価のとおり。		
			外部	—	1次評価及びWG評価のとおり。（委員には書面にて送付）			外部	A	1次評価及びWG評価のとおり。（委員には書面にて送付）			
			2次	—	1次評価のとおり。			2次	A	1次評価のとおり。			

区分	主要施策	基本事業（施策）				事務事業					
		番号	施策名	評価区分	評価	番号	事務事業名	評価区分	評価		
	38	保健医療福祉に携わる専門職に対するリカレント教育の実施	1次	B	従前実施をしていた市民向け公開講座を中心に企画をしており、リカレント教育に関する講座については、ニーズ確認、内容検討を進めた上で、H29年度以降での取組を進めていく。	38-1	地域ケア力向上事業	1次	A	KPIは29年度以降となるが、平成28年度事業として実施した多岐の内容による保育職への実態調査で多くの回答をいただき、保育職が抱えている今日的な課題や勤務実態等を把握できたことは、今後の研究や地域貢献事業におおいに役立つものである。	
			WG	—	1次評価のとおり。			WG	A	1次評価のとおり。	
			外部	—	1次評価及びWG評価のとおり。（委員には書面にて送付）			外部	A	1次評価及びWG評価のとおり。（委員には書面にて送付）	
			2次	—	1次評価のとおり。			2次	A	1次評価のとおり。	
	⑩卒業生の地元定着化の促進	39	市立大学卒業生の地元定着化の促進	1次	A	地元就業者数は目標を上回っているが、今後の雇用場所の確保（地元就業策）に課題を抱えている。目的とする地元就業に本施策が与えた影響度の数値化。	39-1	地元就業支度金助成事業・奨学金返還支援事業	1次	A	当初見込んだ目標を上回った。
				WG	—	1次評価のとおり。			WG	A	1次評価のとおり。
				外部	—	1次評価及びWG評価のとおり。（委員には書面にて送付）			外部	A	1次評価及びWG評価のとおり。（委員には書面にて送付）
				2次	—	1次評価のとおり。			2次	A	1次評価のとおり。